

市川市「道の駅」基本方針

市川市

平成25年3月29日

【 目 次 】

I	道の駅整備の目的	1
II	コンセプト	2
III	全体の整備方針	4
IV	計画候補地の概要	5
V	導入機能	7
VI	ゾーニング	10
VII	一般的な整備手法	15
VIII	資料編	17

I 道の駅整備の目的

市川市では、平成27年度から全線開通予定となっている東京外かく環状道路（以下「外環道路」という。）の整備が進んでいます。現在、外環道路にはサービスエリアなどの施設が少なく、供用区間においてはトラックなどの休憩施設の不足、ゴミの問題などが発生しています。

また、人口減少社会の到来により、ますます地域コミュニティの維持が難しくなってくる中、コミュニティ活動の場の整備だけでなく、防災活動の場の整備などが求められています。

これらの課題に対応するため、基本となる3機能「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」及び「防災機能」を併せ持った都市型道の駅を整備します。外環道路の千葉県区間の玄関口としての立地を活かし、遠方からの来訪者にも立ち寄ってもらえる、利便性の高い交流の拠点を創出することにより、第二次基本計画の10年間のまちづくりの目標である「安心して 快適な 活力あるまち」の実現を目指します。

Ⅱ コンセプト

平成23年4月に策定された第二次基本計画の中でキーワードとされている「安心」「快適」「活力」を創出することを目的に、次のように道の駅のコンセプトを設定します。

人々が集う 活力とにぎわい・情報発信の都市型道の駅

- ・ 防災・復旧活動の拠点
- ・ 地域のたまり場・広域交通の休憩の拠点
- ・ 周辺の自然と一体となった、コミュニティ活動の拠点
- ・ 周辺地域や県内全域の情報発信の拠点

【防災・復旧活動の拠点】

平時は、地域の防災訓練の場として活用できる施設整備を目指します。

被災時には、緊急避難場所として活用できる場、また、物資供給の場、災害関係機関の待機・活動の場としての活用も目指します。

【地域のたまり場・広域交通の休憩の拠点】

周辺の自然を活かした、地域住民が楽しめる空間の整備を目指します。外環道路における道路利用者が気軽に立ち寄れるように、十分な駐車場の整備を目指します。

【周辺の自然と一体となった、コミュニティ活動の拠点】

交通利便性の高い立地を活かして、周辺に住んでいる人だけでなく、ここを訪れる人、通過する人など、皆が立ち寄れる場を目指します。

周辺の自然を活かし、相乗効果を生み出す場を目指します。

【周辺地域や県内全域の情報発信の拠点】

周辺地域及び県内の道路情報や災害情報、イベントの開催情報や観光情報など、多様な情報提供ができる場を目指します。

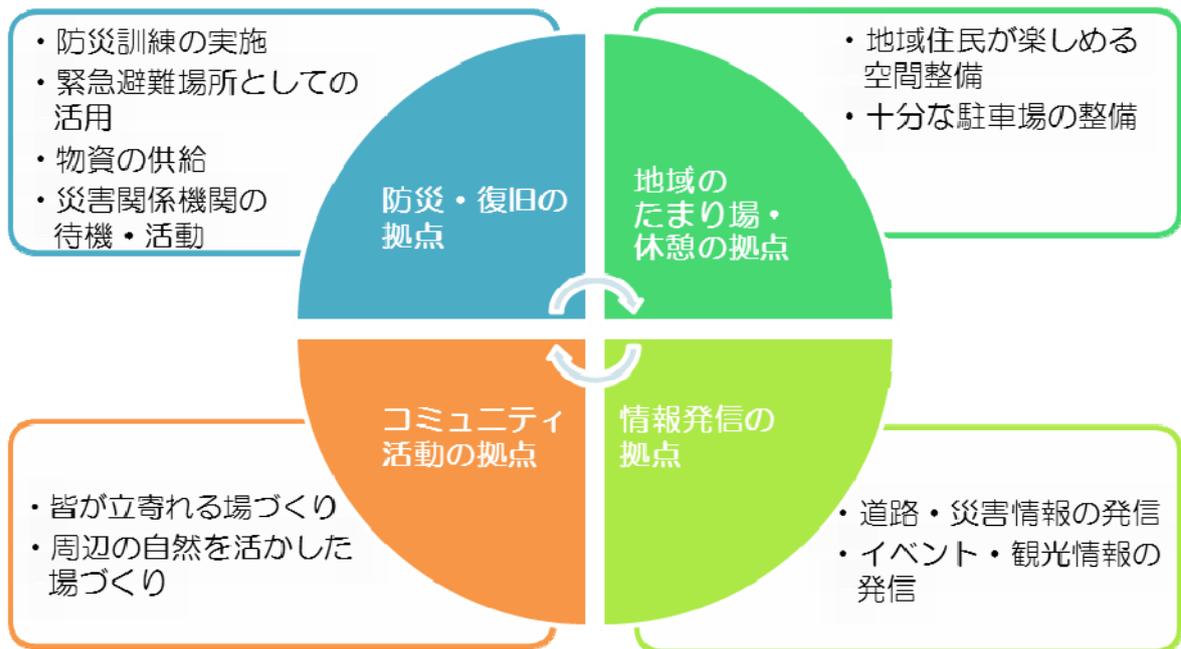


図 コンセプトの概念図

Ⅲ 全体の整備方針

コンセプトを実現するための施設整備の方針を、以下のように定めます。

【周辺施設との連携強化】

道の駅の位置については、道の駅から周辺施設へ、また、周辺施設から道の駅へ歩いていけるような位置とします。

機能については、道の駅と周辺施設がお互いに補完しあうことで、利用者にとって便利な複合施設となるよう整備します。

【立寄り機能と目的機能のバランス】

広域を対象とし、特産物等の販売所としての位置づけが強かった従来型の道の駅に、地域住民施設を併せて整備することで、道の駅に立ち寄る人だけでなく、周辺に住んでいる人からも利用される、バランスのとれた施設整備を進めます。

【避難地や物資供給のための空間を確保】

被災時には緊急避難場所として活用できる場、また、物資供給の場、災害関係機関の待機・活動の場としての機能を持たせる必要があることから、休憩施設や駐車場には十分な面積を確保します。

【多様な情報発信】

周辺地域及び県内の道路情報や災害情報、イベントの開催情報や観光情報など多様な情報を分かりやすく提供する施設を整備します。

IV 計画候補地の概要

(1) 設置の前提条件

道の駅の候補地については、整備の目的やコンセプトを踏まえて、以下のような前提条件を設定します。

【外環沿道】

平成27年度に開通予定の外環道路は、市川市の南北交通の骨格となる路線であり、自動車専用道路部分と併せて一般道も整備されるので、多くの人にとってアクセスが容易になります。

【地域資源の活用】

国分川調節池やクリーンスパ市川などの既存の地域資源を有効に活用することで、レクリエーション施設等としての利用も可能になります。

(2) 候補地

これらの条件から、道の駅の候補地を右図の位置（国分、菅野、高谷の3箇所）とします。

今後は、これに基づき設置箇所を選定します。



図 将来都市構造図

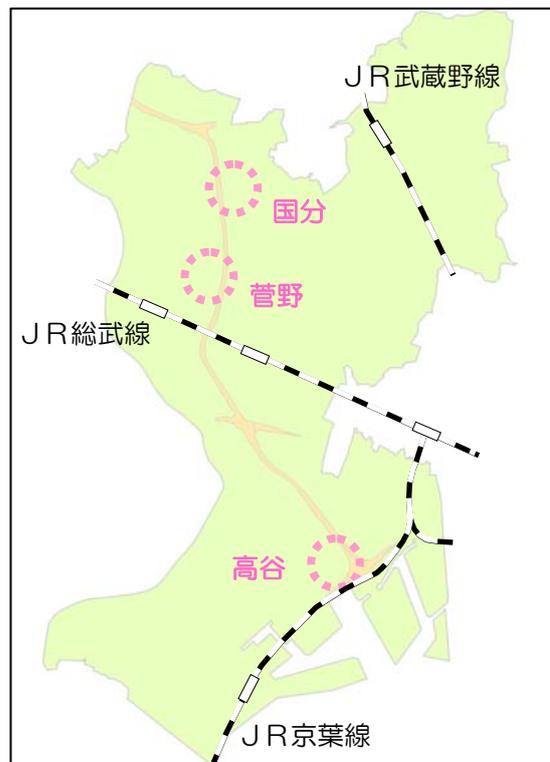


図 道の駅候補地

【候補地の概要】

① 国分

農地が多く、周辺には国分川調節池の上部利用計画があり、野球場やサッカー場をはじめとしたスポーツ施設、散策やウォーキングの場などが整備される予定となっています。

賑わいの創出と併せて、被災時の避難場所等としての活用が期待されます。

② 菅野

学校が集中している地域です。一時避難場所として指定されているところが多く、被災時には、学校施設と連携して大規模な避難エリアとして機能することが期待されます。

③ 高谷

ごみ焼却場の熱を利用したクリーンスパ市川があり、江戸川沿いにはサイクリンググロードが整備されています。道の駅と合わせて活力ある施設利用が期待できます。江戸川の水は防災訓練などで利用できます。

【候補地の比較検討】

3候補地を次の観点から総合的に比較検討した結果（資料編（2）参照）、現時点では、国分、菅野、高谷の順に高く評価します。

①上位計画

総合計画、都市計画マスタープラン等、上位計画への位置付けを確認します。

②用地確保の可能性

一定の規模を確保できる土地の面積について評価します。

③拡張性

周囲の拡張できる土地の状況について評価します。

④景観

周囲の景観を活かせるか評価します。

⑤産業・観光資源の位置

市内の産業・観光資源との連携の図りやすさについて評価します。

⑥周辺への影響

周辺の土地利用への影響について評価します。

⑦利便性

来客にとっての利便性として、交通アクセス等について評価します。

⑧防災面

災害に対応する機能を果たせるか評価します。

V 導入機能

市川市の道の駅のコンセプトに基づき、道の駅が持つべき基本的な3つの機能（「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」）及び防災機能を踏まえて整理すると、以下のように導入すべき機能が設定されます。

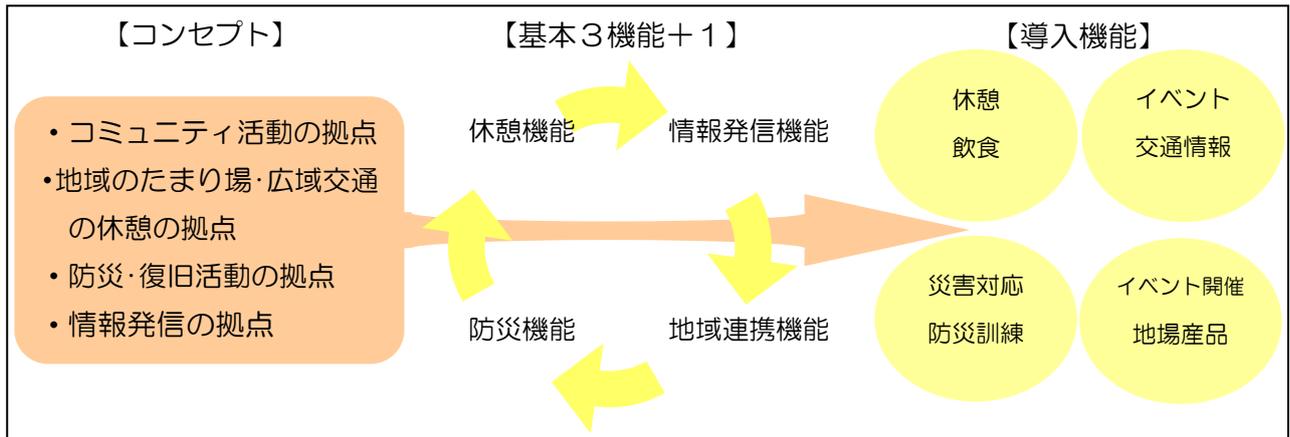


図 導入機能検討の概念図

表 導入すべき機能と想定施設

	導入機能	想定される施設
休憩機能	気軽に休憩できる空間	駐車場 ----- トイレ
	飲食の空間	休憩コーナー
情報発信機能	イベント情報等の発信	情報コーナー
	道路・災害情報の収集・発信	情報コーナー
地域連携機能	イベントの開催	広場
	地場製品の販売	直売所
	いちかわ食の提供	レストラン ----- 売店
防災機能	災害時の対応	貯水タンク
	平常時の訓練	非常用トイレ ----- トイレ用貯水槽 ----- 非常用電源 等

(1) 休憩機能

①気軽に休憩できる空間

道路利用者が気軽に立ち寄り、安心してくつろげる空間を整備します。

- ・ 道路利用者がいつでも利用できる駐車場を整備します
- ・ いつでも安心して利用できるように、24時間利用可能なトイレを整備します
- ・ 駐車場とトイレには身障者用や大型車用のスペースを配置します
- ・ 自転車や歩行者など、地域の利用者へも配慮します

②飲食の空間

道路利用者だけでなく、周辺施設の利用者、さらには住民にも利用してもらえるような飲食の空間を整備します。

- ・ 休憩コーナーを設置し、飲食を楽しめる空間を整備します
- ・ 道路利用者や買い物客の休憩スペースとなる休憩コーナーを設置し、多目的な利用形態を想定し整備します

(2) 情報発信機能

①道路・災害情報の収集・発信

平常時は周辺道路の交通状況について情報発信をし、災害が起こった場合には、市内の情報を中心に収集し、道の駅で一括して確認できるシステムを整えます。

- ・ 周辺での事故や工事についての情報等を発信します
- ・ 周辺の災害の様子を、情報コーナーから発信します

②イベント情報等の発信

長距離移動者や周辺住民など、様々な人を対象として、市川市の情報を中心に周辺地域や県内全体の情報を広く発信します

- ・ イベントの開催情報などを発信するための情報コーナーを設けます
- ・ 過去のイベント情報を常時閲覧できるコーナーを設けます
- ・ シティセールスの視点も踏まえた市内の観光情報や千葉県玄関口として県内の観光情報などの案内コーナーを設置し、周辺施設との連携を強化します

(3) 地域連携機能

①イベントの開催

道の駅が目的地となるようにイベントを開催することで、多種多様な活動の拠点となることを目指します。また、周辺施設との連携による地域の活性化にも努めます。

- ・ 年間通して様々なイベントを開催します

- ・ 周辺地域でのイベント開催時には、送迎バス等の乗降に利用します
- ・ 周辺施設のイベントに対して多目的な場を提供します
- ・ 広場は、イベントの他、休憩スペースや防災活動の場としても活用します
- ・ 周辺の道の駅と連携したイベントなどの開催を検討します

②地場産品の販売

「いちかわらしさ」を感じられる場を目指します。シティセールスを目的とし、地元で採れる農産物等を販売することで、市内への経済効果が期待されます。

- ・ 周辺地域で採れる農産物や花き類、地域の土産物など、周辺の産業を象徴する商品を販売し、多くの人々が訪れたい場を目指します
- ・ 季節折々の花を植えるなど、地域のPR効果を高めるような工夫をします

③いちかわ食の提供

ここでしか食べられない地場食材を使用した料理や商品を提供するなど、人々の交流の場として地域の活性化に努めます。

- ・ 周辺地域で採れる農産物を使用した料理の提供や商品の開発などを検討します
- ・ 料理や商品に使用している農産物の情報を併せて発信するなど、興味を持ってもらう工夫をし、何度も訪れたい場を目指します
- ・ 地元の飲食店などと協力して、イベントを開催することを検討します

(4) 防災機能

①災害時の対応

幹線道路沿いという立地条件から、災害時は避難場所としてだけでなく、物資輸送の拠点となります。

- ・ 災害時は、非常用の防災機能を活かした避難場所となります
- ・ 災害関係機関の待機・活動の場としても利用できる場とします
- ・ 他の物資供給拠点と連携した、物資の供給の場としても利用します

②平常時の訓練

災害時には地域のコミュニティが必要不可欠であることから、適切かつ速やかに避難者対応等ができるように、イベントと組み合わせた訓練を検討します。

- ・ 各防災関連施設の使用方法等について、地域住民とともに訓練するイベントを検討します

VI ゾーニング

計画を行うにあたり、以下の視点からゾーニングを検討します。

【安全な動線】

安全な動線計画とするために、歩行者と車両の動線の交差を極力避けるように検討します。

【効率的な配置】

「利用者」と「生産者」の相互の利便性を高めるために、出入口を分離するとともに、駐車場と施設間の移動が極力少なくなるように施設配置を検討します。

【身障者対策】

身障者や高齢者に対して、より安全で利便性の高い配置計画を検討します。

【夜間利用】

24時間対応の施設となるため、昼夜間時を区別して、効率の良い運営形態を検討します。

【周辺環境】

周辺の生活環境に配慮した施設計画となるよう検討します。

候補地別に導入すべき施設の例を挙げると、以下のようになります。なお、施設の選定については各候補地の敷地の大きさ等を考慮して列挙しています。

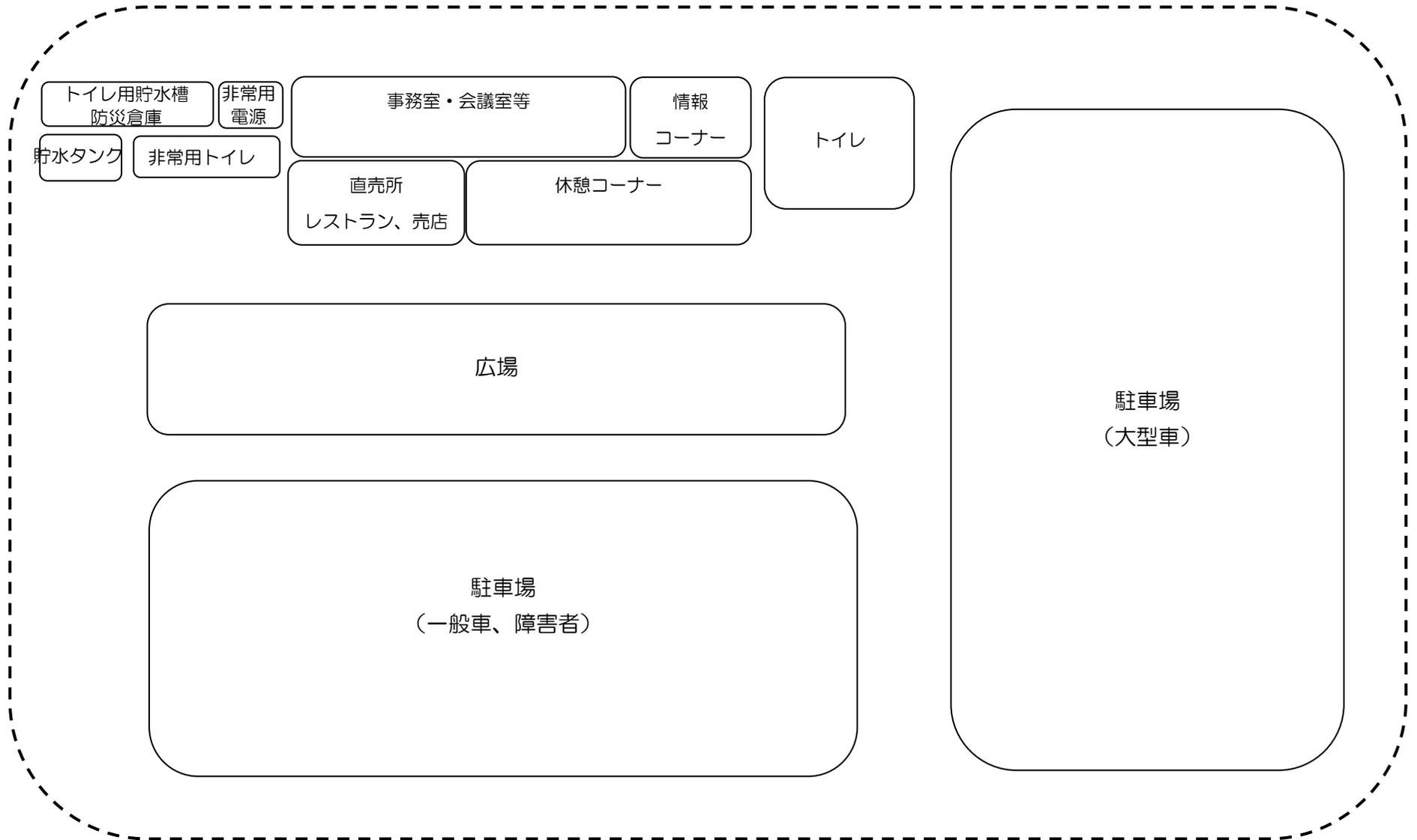
表 導入施設

導入機能	導入施設	候補地		
		国分	菅野	高谷
休憩機能	駐車場	○	○	○
	トイレ	○	○	○
	休憩コーナー	○	○	○
情報発信機能	道路・災害情報コーナー	○	○	○
	地域情報コーナー	○	○	○
地域連携機能	広場	○	○	○
	直売所	○	○	○
	レストラン、売店	○	—	既存
	会議・研修室	○	—	既存
防災機能	貯水タンク	○	○	○
	非常用トイレ	○	○	○
	トイレ用貯水槽	○	○	○
	非常用電源	○	○	○
	その他	○	○	○

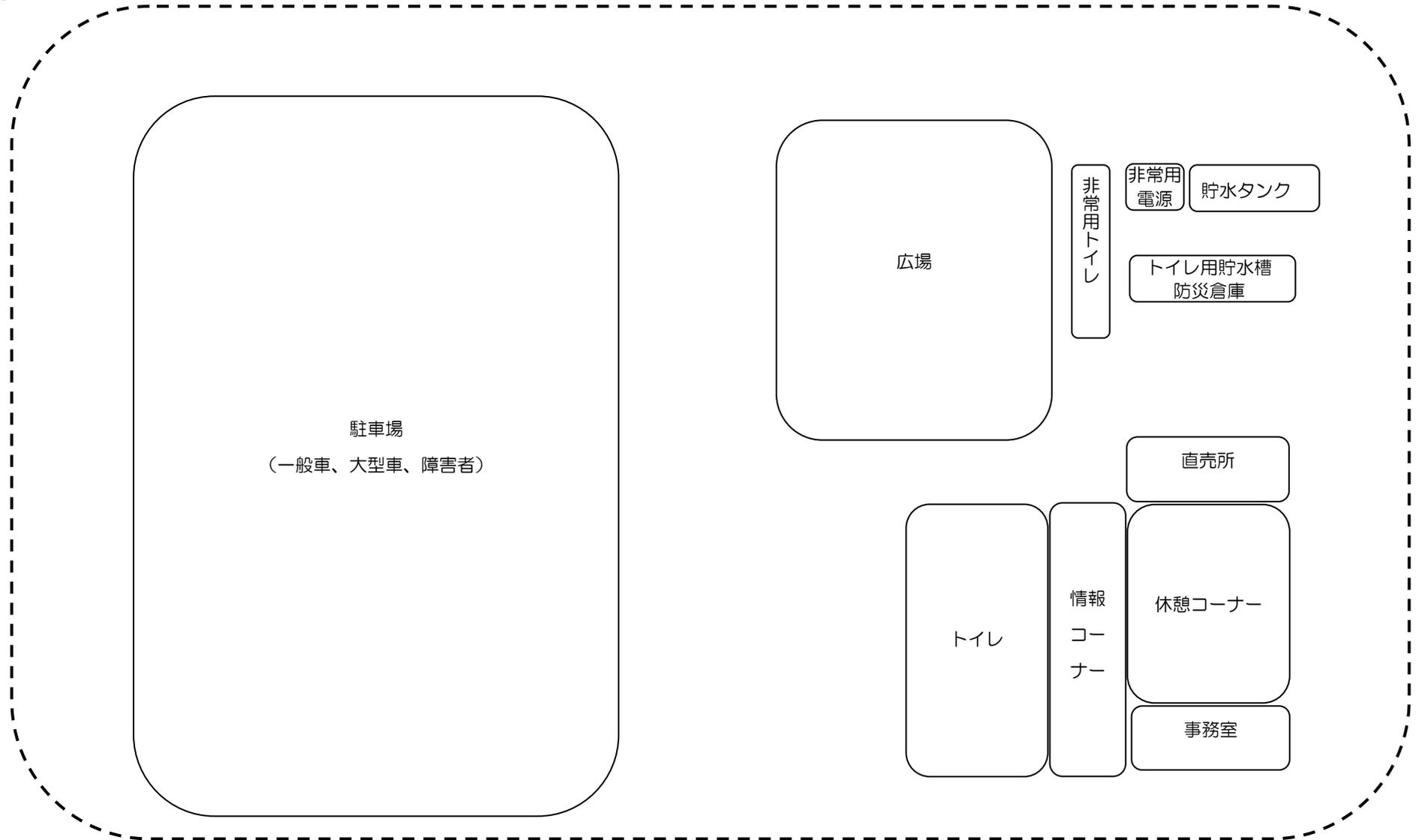
※なお、上表は想定される代表的な施設について列挙したもので、実際の導入施設を限定するものではありません。

【主な機能配置図（例）】

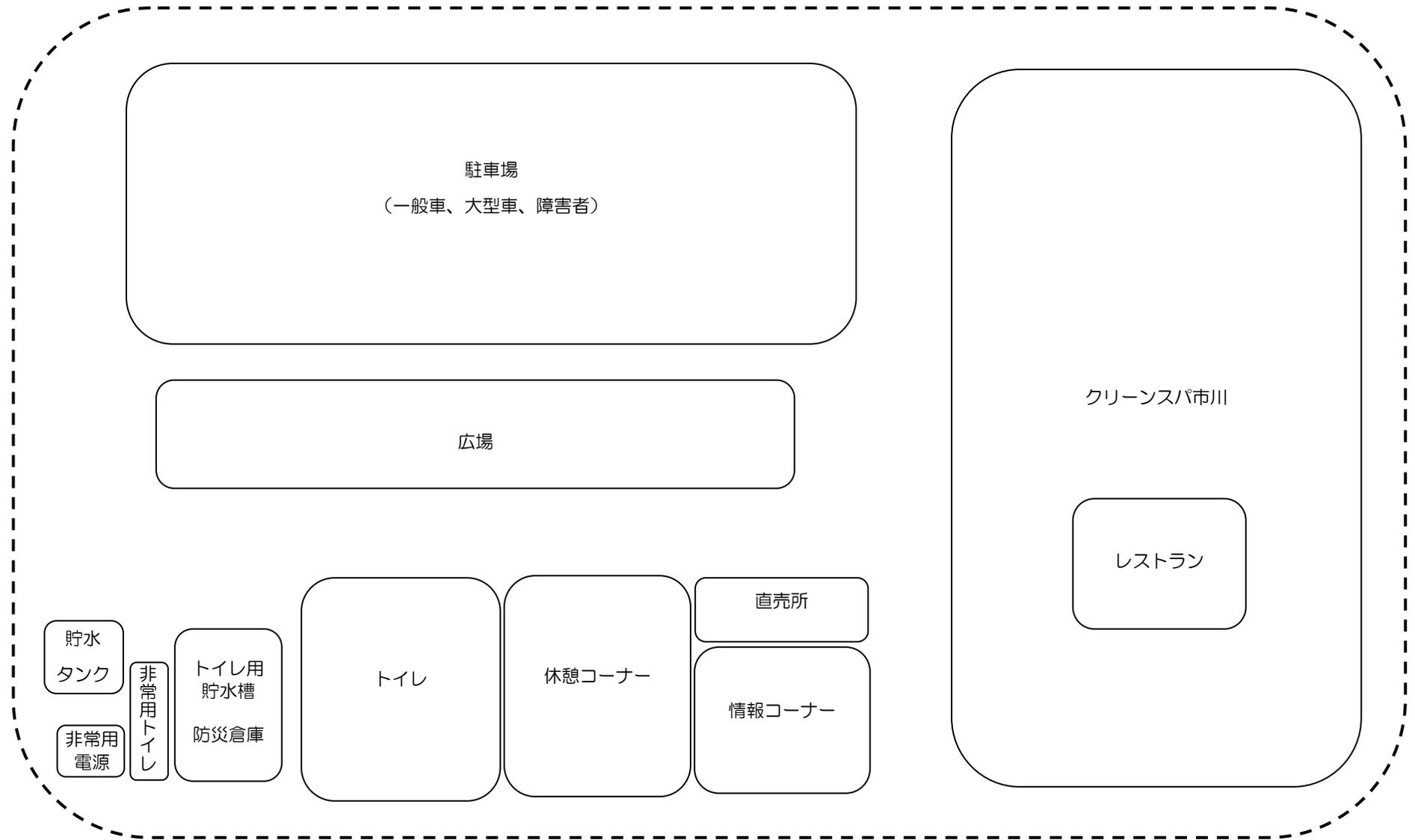
①国分（例）



②菅野（例）



③高谷（例）



Ⅶ 一般的な整備手法

(1) 道の駅の整備手法について

道の駅の整備手法では、道の駅の構成施設を全て市町村等のみで整備する「単独型」と道路管理者と市町村等が共同で施設を整備する「一体型」があります。

「一体型」の整備手法では、駐車場・トイレ・道路情報ターミナル等の交通安全上必要な施設については、道路管理者が整備し、地域振興施設（直売所やレストラン等）は市町村等が整備することになります。



図 役割主体のイメージ

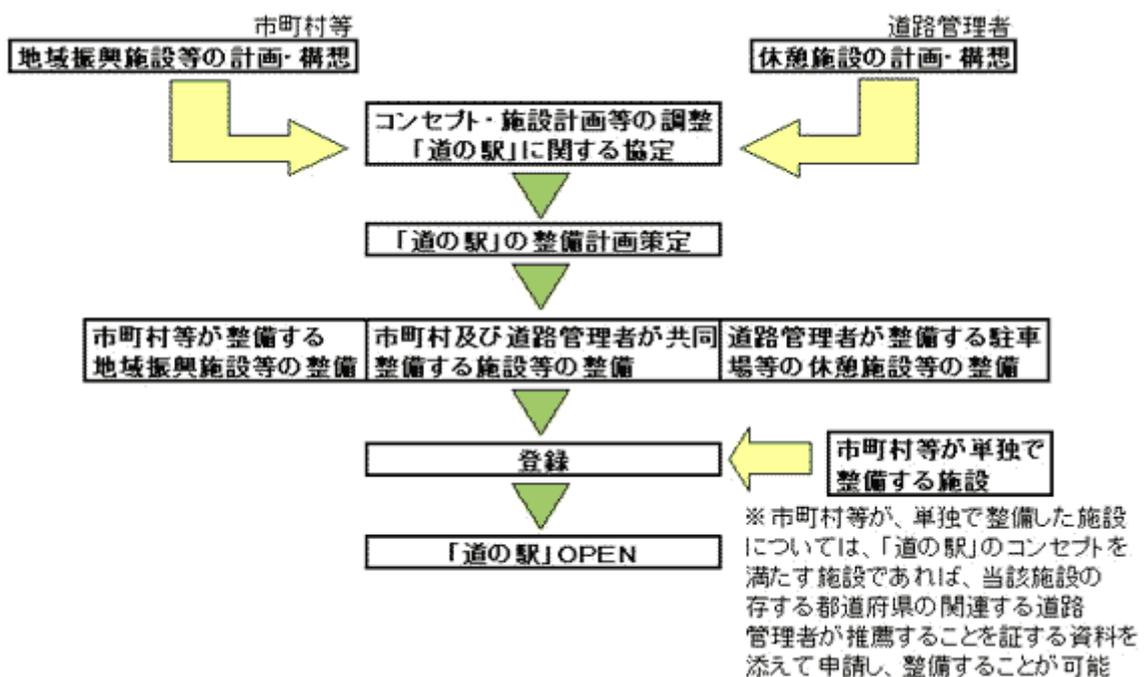


図 道の駅が出来るまで

(2) 道の駅の整備主体

市川市では、道路管理者と市川市等が協力して共同で整備する「一体型」整備手法の実現に向けて、今後、道路管理者等の関係機関との調整を進めていきます。

表 道の駅整備役割分担

導入機能	導入施設	整備主体	
		市川市等	道路管理者
休憩機能	駐車場	○*	○
	トイレ	○*	○
	休憩コーナー		○
情報発信機能	道路・災害情報コーナー		○
	地域情報コーナー	○	
地域連携機能	広場	○	
	直売所	○	
	レストラン、売店	○	
	会議・研修室	○	
防災機能	貯水タンク	○	○
	非常用トイレ	○	○
	トイレ用貯水槽	○	○
	非常用電源	○	○
	その他	○	○

※駐車場、トイレについては、その必要性に応じて市町村等が道路管理者の整備する数以上を設置する場合があります。

Ⅷ 資料編

(1) 道の駅整備の背景

市川市に道の駅を整備する目的の背景となる本市の概要等を示します。

【本市の位置等】

本市は、千葉県の北西部に位置し、都心から20キロメートル圏内にあります。北は松戸市、東は船橋市と鎌ヶ谷市、南は浦安市と東京湾に面し、江戸川を隔てて東京都と対峙しています。

都心部と県内各地域を結ぶ広域交通が集中しており、総武線や京成線等の鉄道網が発達し、京葉道路、湾岸道路、国道14号といった幹線道路が東西方向に通っています。

昭和9年に県内で3番目となる市制が施行され、周辺町村との合併や公有水面の埋立てを経て、現在、市域は56.39平方キロメートルとなっています。

地形は、北から南に向かって傾斜しており、北部に台地があるほかは、おおむね平坦であります。

【本市の沿革】

本市の歴史的成り立ちは古く、縄文時代の貝塚や弥生時代の遺跡が残されています。大化の改新後には下総の国の国府が置かれ、地方都市の中心として栄え、万葉集の舞台にもなっています。

江戸時代に入ると、北部では農村集落が広がり、市川砂州を中心に梨栽培が行われ、南部では塩業が発展しました。また、寺社が増加するとともに、交通路が発展し、八幡と行徳は宿駅として発展しました。

明治時代に軍隊が国府台の地に置かれると、市街化が進み、総武本線や京成本線の開通等により本格的な都市化が始まりました。そして、昭和9年の市制施行、翌年の国鉄本八幡駅の開設等により人口は徐々に増加し、高度経済成長期に急激な人口増加及び市街化が進みました。臨海部の埋立地には工場が進出し、駅周辺には商業・業務施設が集まり、田園地帯でも急激な宅地化が進み、現在では、東京近郊の文教・住宅都市として、首都圏及び千葉県の主要な交通軸上に位置する中核の都市として発展しています。

【本市の特長】

本市は、国府台の斜面林、住宅地と調和したクロマツ、梨畑をはじめとする農地、広がりのある河川等の水辺空間、歴史ある寺社や旧街道、文学作品の舞台、まちの骨格となる道路、落ち着いた住宅地、駅前の商業地、臨海部の工業地等様々な要素から成り立っています。

そして、ギャラリー、博物館、東山魁夷記念館等の文化施設、真間の継橋、常夜燈公園等の歴史を偲ばせる施設、中山法華経寺をはじめとする神社仏閣、里見公園、行徳野鳥観察舎等の自然と親しめる施設、クリーンスパ市川、アイリンク展望施設等の新しい施設等、魅力ある施設も数多くあります。また、本市の特産品である「市川の梨」は、地域ブランドの登録を受けています。

【総合計画等】

市川市総合計画では、目指すべき将来都市像として「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」を掲げ、この将来都市像を実現するため、第二次基本計画において「安心」「快適」「活力」をキーワードとするまちづくりの目標を定めています。

そして、市川市都市計画マスタープランでは、将来都市像を実現するための都市づくりの目標として、「活力・住みやすさを持つバランスのとれた魅力ある都市づくり」「歴史・文化・自然を活かし潤いと安らぎのある都市づくり」「都市基盤が整い安全に安心して暮らせる都市づくり」「都市活動や日常生活を支える交通環境の充実した快適な都市づくり」「市民・事業者、行政の協働によるまちづくり」を定めています。

【外環道路】

外環道路の千葉県区間は、平成27年度の全線開通を目標に整備が進められています。首都圏の重要な環状道路としての役割を担っており、一時的な避難路や緊急輸送路としての機能も期待されています。また、本市においては、南北方向の道路網が強化され、交通の中心軸が形成されることとなります。

(2) 候補地比較表

区分	国分		菅野		高谷	
① 上位計画	都市計画マスター プランで「道の駅」 の位置づけがある。	○	特になし	△	特になし	△
② 用地確保 の可能性	沿道には農地が多 く、15,000 m ² 以上の 確保が見込まれる が、用地交渉が必要 となる。	△	外環道路の用地と して約 10,000 m ² 確保できる。	○	クリーンセンター として都市計画決 定がなされている 土地で、道の駅と しての用地の確保 が困難である。	×
③ 拡張性	周辺に施設の拡張 の可能性がある土 地が存在し、市民農 園等として一体的 な利用も考えられ る。	○	周辺は学校用地等 であり、拡張の可 能性がある土地が 存在しない。	×	クリーンセンタ ー、クリーンスパ 市川に隣接してお り、拡張の可能性 のある土地が存在 しない。	×
④ 景観	周辺の農風景を活 かした景観形成が 望める。	○	周辺が学校用地等 のため、景観形成 は難しい。	△	江戸川と一体とな った景観形成が望 める。	○
⑤ 産業・ 観光資源 の位置	比較的多くの農地 があり、また、国分 川調節池も位置し ている。	○	産業・観光資源の 集積は少ない。	△	クリーンスパ市川 のほか、江戸川な どの水辺空間があ る。	○
⑥ 周辺への 影響	住宅等が少なく、騒 音問題等の心配も 少ない。	○	学校、住宅等に隣 接し、騒音・渋滞 等の心配がある。	△	住宅等がなく、騒 音問題等の心配も 少ない。	○
⑦ 交通 利便性	外環道路から入り やすいが、交差点か ら近いいため渋滞に 注意が必要。	△	外環道路から入り やすいが、交差点 から近いため渋滞 に注意が必要。	△	交差点がなく、U ターン機能がない。	△
⑧ 防災面	広い土地を活かし て、避難場所や物資 配分等の拠点とし て活用できる。	○	避難所である学校 と連携した避難場 所として活用でき る。	○	江戸川の水を活用 した防災訓練など、被災時以外で も活用できる。	○